

倉橋惣三の教え子、草野（檜山）京

— 墓碑に「育ての心」の文句を刻んだ保育者 —

小林 恵子

研究目的と方法

草野（旧姓、檜山）京は東京女子高等師範学校の卒業生で倉橋惣三の教え子としてその生涯を幼児教育ひとすじに生きた保育者である。アメリカの進歩主義教育に基づく万国幼稚園協会編「幼稚園保育要目」を邦訳し、番町幼稚園主任、文京区立第一幼稚園長、国立音楽大学附属幼稚園主任および「幼稚園教諭養成所」教師を歴任した。

私は彼女が晩年、国立音楽大学に勤務されたころ親しく接したが、豊かな教養と進歩的な考え方に学ぶ点が多かった。また、詩才に富み、音楽や絵画、書に秀で草花を愛しておられた。倉橋惣三の墓碑「育ての心」の文句は草野が書いたものである。「こいのぼり」の歌詞は昭和の初め応募して選ばれ、文部省から五円貰ったと話されたが、「こいのぼり」の歌詞は「童謡唱歌のほん」（自由現代社、昭和35年）に近藤宮子作詞と明記されている事から、草野の足跡をあらためて問い直し、一人の保育者の歩んだ道を少しでも明らかにしたいと考えた。

方法は草野が倉橋惣三について話されたテープ、草野の義弟、檜山義夫との対談、お墓のある草野家の明治寺を訪ね親類の方との対談、番町幼稚園、文京区立第一幼稚園の百周年記念誌や「幼児の教育」誌などの文献ほか、教え子の堀合文子のお話を聞くなどから調査をすすめた。

★草野（檜山）京（1894-1971）の生涯

1. 育った家庭環境とその時代

草野の略歴は次の表のとおりであるが、その生涯は時代の影響を受け幼少期から波乱にみちていた。父、檜山鎮三郎は近藤真琴の攻玉社を卒業、板垣退助（自由民権論を主張）の重臣で芝区会議員、東京市会議員（第二区選出、無所属）、台湾総督府判官などを歴任、政界で活躍した人である（「議会制度七十年史」）。当時の政界人が妾を持つことは珍しくなく、草野の生母は三味線の師匠で彼女が生れると正妻に子がない事からすぐ実母から引き離され、正妻に育てられた。共に育った異母弟で十五歳下の檜山義夫の談によると、幼い頃はこうした事は何も知らずに育ったという。その頃、家は芝の福沢諭吉の福沢塾の隣にあり、英国人がよく父を訪問していたという。進取的でハイカラで洋風好みの父は当時は珍しかったミシンを買って妻に縫わせ子ども達に洋服を着せたり、脚を曲げないで座るよう机と椅子の生活で教育したという。彼女の進歩的な考え方や語学力は幼い頃の家庭環境によるものと考えられる。

草野（檜山）京の略歴

1894（明治27）	4.2	東京の芝に生まれる（本籍は麹町）
1914（大正 3）	3	東京女子高等師範学校附属高等女学校専攻科（三ヵ年）卒業
" "	7	同校保母実習科卒業
1915（大正 4）		ベラ・アルウィンの自宅での幼児教育研究会に岩村安子と共に出席
" "	6.6	この頃、霊南坂教会に出席、受洗
1916（大正 5）	9	日本橋高等女学校附属幼稚園主任
1922（ " 11）	1.23	父、檜山鎮三郎死去
1923（ " 12）		「幼稚園保育要目」を邦訳する。
1924（ " 13）	6	番町尋常小学校附属幼稚園主任
1937（昭和12）	5	本郷区立第一幼稚園園長
1939（ " 14）	4	草野清次（江原丸船長）と結婚
1942（ " 17）	8	本郷区立第一幼稚園園長を依頼退職
1944（ " 19）	11.22	草野清次、台北の基隆沖合で戦死
1949（ " 24）	8	図書（絵本）プレイメード編集顧問
1950（ " 25）	6	国立音楽大学附属幼稚園主任
1952（ " 27）	4	同大学幼稚園教諭養成所講師
1963（ " 38）	3	同大学退職
1971（ " 46）	12.12	没（78歳）

2. 倉橋惣三との出会い

東京女子高等師範学校の女学校を卒業した草野は専攻科にすすみ、そこで倉橋の授業「児童心理学」を学んだ。倉橋との出会いは草野にとって幼児教育との出会いであり、倉橋への傾倒から同校保母実習科へすすんだ。卒業写真に指導教官、倉橋惣三、安井てつが写されている。草野の思い出によると「倉橋先生は芸術家で広い趣味をもっておられ、講義はいつも脱線して趣味の方へひきこまれた。とても面白くて楽しい授業だった。先生は子どもと一緒に遊んで子どもから学べ、身体で学べと言われた。当時は関西が幼児教育が盛んで大阪方面の幼稚園に連れて行って頂いた」という。

3. アルウィンの研究会と霊南坂教会への出席

保母実習科時代の親友、岩村安子（旧姓は小崎、牧師岩村清四郎夫人）と共にベラ・アルウィン（玉成保育専門学校創立者）の自宅で開かれた幼児教育研究会に出席し、フレーベルの教育思想や恩物の扱いを学んだ。またこの頃、岩村安子に誘われ霊南坂教会へ出席し大正4年6月に受洗している（霊南坂教会報告）。草野がこの時

中央の写真が倉橋惣三、前列右から三人目、草野京
二人目が岩村安子、後列右から三人目が安井てつ
(東京女子高等師範学校保母実習科、大正3年)



期だけだったにせよキリスト教思想に触れた事は恩師、倉橋や安井の思想的影響を受けたものとする。

4. 保育者として、自活の道を歩む

大正11年に父を亡くし、翌年の関東大震災で家屋敷を失った檜山家は経済的な破綻をきたし一家は離散を余儀なくされた。彼女は十五歳年下の義弟(当時は中学一年、後に東京大学名誉教授、水産学者となる)の教育費を捻出し、義弟を育て自活の道を歩み始める。大正13年から番町幼稚園の主任、次いで本郷区立第一幼稚園園長を歴任したが草野の生涯で最も生きがいのある日々であった。

5. 番町幼稚園時代(大正13-昭和12)

(1) 「幼稚園保育要目」の邦訳(大正12)

アメリカの新教育の原理に基づくカリキュラム、万国幼稚園協会編「The Kindergarten Curriculum」「幼稚園保育要目」(註1)は日本幼稚園協会誌として大正13年教文書院から出版された。邦訳は草野(檜山)で、序文に倉橋は「番町幼稚園保母檜山京子君に嘱して纂譯した」と明記している。最初は「幼児の教育」誌23巻(大正12年1-9)に連載されたが邦訳者の名前は記されていない。この「幼稚園保育要目」が邦訳された事は倉橋の「系統的保育案」が作成される上で特に大きな意義を果たしたものである。

(2) 小林宗作のリトミック研究会に出席して

ダルクローズが創始したリトミックを日本で初めて教育界に導入した小林宗作は成城幼稚園でリトミックを教えると共に研究会を開き教師養成に努めた。草野はその研究会の最初からの弟子でいち早く番町幼稚園にリトミックを導入、小林が自然や生活の中にあるリズムを幼児に体得させようとした事に賛同、番町幼稚園でも盛んに園外保育(苺つみ、いもほり等)を行い、園児が土いじりを楽しめるよう骨折っている。

(3) 夏の幼稚園(昭和5年7月から)を発案し実行

当時の園長、岡井二良は「夏の日盛りに街路で遊んでいる幼児を見て何とかして衛生的な施設でこれらの児達を暑い季節中見てやりたいと考えて発案されたのが檜山さんでした」(番町幼稚園「創立百周年記念誌」)とある。多くの援助者と保母たちの奉仕で幼稚園に通っていない幼児を集めお話や紙芝居、映画の会、遠足など楽しい保育を行った(7月21-8月20)。これが好評で翌年からは区でとりあげ戦争の初め頃まで続けられた。

6. 草野姓となって、国立音楽大学に勤務

義弟の結婚後、草野は沼袋の百観音明治寺の長男で江原丸の船長、草野清次と結婚した。夫には4人の子どもがいて草野はこのため園長を依頼退職、戦争中には夫が戦死するなど苦難の時期に遭遇する。戦後、小林宗作の招きで国立音楽大学附属幼稚園の主任に迎えられ、次いで同大学「幼稚園教諭養成所」で教師として保育者の養成に携った。公立系幼稚園に長く勤務してきた草野にとって私立幼稚園は多少肌のあわない事もあったが、研究熱心な彼女は自然環境を大切にし園庭に草花を植え、お話が上手で声のきれいな先生として親しまれた。附属幼稚園には草野が描いた紙芝居が今も残されている。

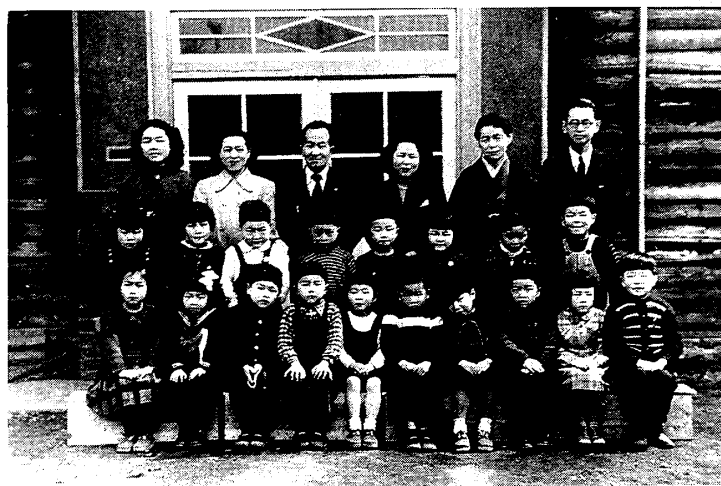
★ 倉橋惣三の墓碑に「育ての心」の文句を刻む

多摩霊園の倉橋の墓に「自ら育つものを育たせようとする心。それが育ての心である」と彫られた碑がある。堀合文子(現・十文字幼稚園主事)の談によると「草野先生は私たちの大先輩で書にすぐれておられた」という。

★ 「こいのぼり」の作詞は草野ではなかったか?

草野が晩年、私に「こいのぼり」の作詞は自分の作品で選ばれて5円を買ったと話された事がある。二、三人もそれを聞いているが間違いだったか?

(註1) 復刻「大正・昭和保育文献集」第2巻「幼稚園保育要目」別巻 小林恵子解説 日本らいぶらり 1978



後列右から二人目が草野京、一人おいて小林宗作園長
(国立音楽大学附属幼稚園 昭和26.3)